

## 第 15 回日韓アジア未来フォーラム プログラム

### 「これからの日韓の国際開発協力ー共進化アーキテクチャの模索」

日 時： 2016 年 2 月 13 日（土）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

会 場： 東京国際フォーラム ガラス棟 5 階 510

主 催：（公財）渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共 催：（財）未来人力研究院（韓国）

#### フォーラムの趣旨

日本は、国際開発協力、経済発展と省エネルギーの両立など、多くの分野において先駆的な取り組みや技術を蓄積しており、圧縮成長を成し遂げてきた韓国も、その経験やノウハウを東アジア地域における将来の発展や地域協力の在り方への貴重な手掛かりとして提供している。本フォーラムでは、政府開発援助（ODA: Official Developmental Assistance）分野におけるフロントランナーとしての日本の特色ある国際協力と韓国の開発経験が東アジアの持続可能な成長と域内協力にどのように貢献できるか、という問題意識に基づき、日韓の理念（idea）、制度（institution）、国益（interest）の収斂（convergence）と発散（divergence）が織りなす ODA の国際政治経済について考えてみたい。また、円卓会議においては、日韓の比較にとどまらず、今後、日韓が協力し合いながら、ともに進化し、ODA の「東アジアモデル」とでもいえるようなアーキテクチャを創り上げる可能性も視野に入れながら議論したい。

#### プログラム

[日韓同時通訳付き]

《開会》午後 1 時 30 分

《総合司会》 李 鋼哲（りこうてつ：北陸大学未来創造学部 教授）

【開会の辞】 李 鎮奎（リ・ジンギユ：未来人力研究院 理事長/高麗大学教授）

【講演 1】「韓国の学者たちがみた日本の ODA」

孫 赫相（ソン・ヒョクサン：慶熙大学公共大学院教授・韓国国際開発協力学会会長）

【講演 2】「韓国の開発経験と ODA 戦略」

深川由起子（ふかがわ・ゆきこ：早稲田大学政治経済学術院教授）

[休 憩]

【円卓会議（ミニ報告と自由討論）】

モデレーター：金 雄熙（キム・ウンヒ、仁荷大学国際通商学部教授）

ミニ報告 1：平川 均（ひらかわ・ひとし：国士舘大学教授・名古屋大学名誉教授）

「日本の ODA を振り返る」-韓国の ODA を念頭においた日本の ODA の概括-

ミニ報告 2：Maquito Ferdinand（マキト・フェルディナンド：テンプル大学講師）

「日本の共有型成長 DNA の追跡」-開発資金の観点から-

《パネリスト》：上記講演者、報告者及び下記の専門家

園部哲史（そのべ・てつし：政策研究大学院教授）

広田幸紀（ひろた・こうき：JICA チーフエコノミスト）

張 玆植（チャン・ヒョンシク：ソウル大学行政大学院招聘教授・前 KOICA 企画戦略理事）

その他 渥美財団 SGRA 及び未来人力研究院の関連研究者

【閉会の辞】：今西淳子（いまにし・じゅんこ：渥美国際交流財団常務理事・SGRA 代表）

《閉会》午後 4 時 30 分

〈終了後に懇親会を開催します〉

## 講演及び報告の要旨

### 【講演 1】「韓国の学者たちがみた日本の ODA」

孫 赫相（ソン・ヒョクサン：慶熙大学公共大学院教授・韓国国際開発協力学会会長）

#### 講演要旨：

本講演では、日本の ODA についての韓国的な視点を紹介しようとする。このため、韓国の学者たちが発表した日本の ODA についての研究論文に表された分析結果を批判的に考察する。主な議論の対象には日本の ODA の目的と動機、New JICA の設立背景、日本の ODA の規模の増減、市民社会の参加のレベルなどが含まれる。このような検討を通して日韓の ODA にみられる類似性と差別性を明らかにしたい。

### 【講演 2】「韓国の開発経験と ODA 戦略」

深川由起子（ふかがわ・ゆきこ：早稲田大学政治経済学術院教授）

#### 講演要旨：

日本が、今後スマート・ドナーとして、国際社会における経済開発・貧困削減をリードし、援助の潮流を作り出す上では、東アジア型産業発展の経験を最も濃密に共有する韓国との協調は重要な鍵であり、韓国にとっても同様である。このような問題意識に鑑み、韓国の政府開発援助（ODA）にその開発体験がどう反映されようとしているかについて、お話をしたい。体験反映の事例として、セマウル運動と知識共有プログラム（Knowledge Sharing Program: KSP）の 2 つを取り上げ、体験共有への志向が韓国の ODA 体制整備とどういう関係を持つのかに議論したい。

### 【ミニ報告 1】「日本の ODA を振り返る」 韓国の ODA を念頭においた日本の ODA についての概括

平川 均（ひらかわ・ひとし：国士舘大学教授・名古屋大学名誉教授）

#### 報告要旨：

日本の ODA は、戦後復興が始まる 1954 年のコロンボプランによる専門家派遣、研修員受入開始に始まり、2014 年には 60 年を迎えた。1970 年代後半以降、日本の援助大国化の中で様々な議論がなされるが、アジアの発展に伴って今世紀初めにはジャパン ODA モデルが主張されるようになった。国際環境と日本の位置の変化の中で近年は政治的色合いが強まっている。日本の ODA の経験を概観することで、その教訓を考える。

### 【ミニ報告 2】「日本の共有型成長 DNA の追跡：開発資金の観点から

Maquito Ferdinand（マキト・フェルディナンド：テンプル大学ジャパン講師）

#### 報告要旨：

日本と欧米の ODA は微妙に異なる。その違いが生じる原因の一つは援助国自身が経て来た発展経験の相違あるといえるだろう。私は日本の発展経験を「共有型成長」（Shared Growth）として注目している。その DNA の特徴の一つとして、日本国内で行われた開発資金提供（developmental Financing）の独自性が上げられる。そのような特徴を持つ経済発展モデルの ODA 政策への適用には、どのような意義又は課題があるのだろうか。フィリピンの事例をとおして紹介したい。

## 講演者及び報告者のプロフィール

孫 赫相（ソン・ヒョクサン：慶熙大学公共大学院教授・韓国国際開発協力学会会長）

#### プロフィール：

慶熙大学公共大学院教授兼国際開発協力研究センター所長。韓国国際開発協力学会会長を務め、研究責任者として韓国研究財団社会科学支援事業（SSK）中型研究団の研究事業を総括。政策分野では、外交部政策諮問委員、韓国国際協力団非常勤理事兼政策諮問委員、国務総理室国際開発協力実務委員会民間委員などで活動。主要研究主題は ODA 政策、開発パートナーシップ、開発 NGO、成果管理。

深川由起子（ふかがわ・ゆきこ：早稲田大学政治経済学術院教授）

プロフィール：

早稲田大学政治経済学術院教授。エール大学大学院で修士取得、早稲田大学大学院博士課程修了。韓国産業研究院（KIET）、コロンビア大学日本経済研究センター客員研究員、RIETI（独立行政法人経済産業研究所）ファカルティフェローなどを歴任。韓国経済を中心とする経済発展後期の諸課題を制度経済学の枠組みで研究している。具体的には企業統治、労働市場改革、自由貿易協定（FTA）と制度の調和などの研究。

平川 均（ひらかわ・ひとし：国士舘大学教授・名古屋大学名誉教授）

プロフィール：

国士舘大学 21 世紀アジア学部教授、名古屋大学名誉教授。1980 年明治大学大学院経営学研究科博士課程退学、1996 年京都大学博士（経済学）。専門はアジア経済。

主な業績は、『NIES－世界経済と開発－』同文館、1992 年、共編著に Co-design for a New East Asia after the Crisis, Springer Verlag, 2004、

Maquito Ferdinand（マキト・フェルディナンド：テンプル大学ジャパン講師）

プロフィール：

テンプル大学ジャパン講師。アジア太平洋大学 Center for Research and Communication 研究顧問。

SGRA 日比共有型成長セミナー担当研究員。SGRA フィリピン代表。東京大学経済学研究科博士。

専門は開発経済学。

主な研究テーマは、日本の経験を参考とした共有型成長の研究、フィリピンを始めとする発展途上国の開発政策の研究と提言。

.....

**沸騰するアジアの声を世界へ！**

**第 3 回アジア未来会議 in 北九州**

**「環境と共生」**

**2016 年 9 月 29 日（木）～10 月 3 日（月）**

アジア未来会議は、国際的かつ学際的なアプローチを基本として、グローバル化に伴う様々な問題を、環境、政治、教育、芸術、文化などのあらゆる次元において多面的に検討する場を提供することを目指しています。本会議は、渥美国際交流財団関口グローバル研究会（Sekiguchi Global Research Association：SGRA）が、日本留学し現在世界各地の大学等で教鞭をとっていらっしゃる方々とその学生や市民が一堂に集まる交流・発表の場です。

バンコク、パリに続く第3回は北九州市立大学との共催で、北九州市の様々な研究機関や国際交流機関の協力を得て開催します。

テーマ：「環境と共生」

会期：2016 年 9 月 29 日（木）～ 10 月 3 日（月）（到着日、出発日を含む）

会場：福岡県北九州市 北九州国際会議場、北九州市立大学北方キャンパス

規模：基調講演・シンポジウム 500 名、パネルセッション 300 名、現地参加者 50～100 名

主催：公益財団法人渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共催：北九州市立大学、北九州市

後援：文部科学省（予定） その他

詳細はホームページ（日本語、英語対応）をご覧ください。

<http://www.aisf.or.jp/AFC/2016>